

医師・看護師・介護職員の大幅増員を 日本医労連増員闘争ニュース

第 93 号

2010 年 5 月 18 日

日本医労連増員闘争本部

TEL: 03-3875-5871

FAX : 03-3875-6270

ナースウェーブ全国で元気に

「看護職員の労働実態調査」の記者会見とナースウェーブが、マスコミ報道に大きく取り上げられています。全国で取り組まれている私たちの行動が、「看護師不足」と「大幅増員」の必要性を世論にしています。署名の取り組みも進んでいます。5月25日は、国会へ～！！



佐賀県医労連は
15日に、33名で
行動。
160筆の署名を
集めました。

山形90名、781筆

山形県医労連の「看護職員の労働実態調査」記者発表は、13日の新聞（89号で紹介）の他、14日のNHKで放送。5月15日のナースウェーブ行動は、県内4か所で行われ、90名が参加し781筆の署名を集めました。NHKローカルのトップで報道されました！

14日～16日には「看護の日・週間行動」が集中しました。順次、紹介いたします。

「ナースウェーブ in いばらき」

16日水戸市内で行われた、「ナースウェーブ in いばらき」には、看護師や看護職に関心のある高校生や、大学生なども参加。75名の取り組みになりました。

医療問題に詳しい労働経済ジャーナリスト小林美希さんが、「ジャーナリストからみた医療現場」をテーマに講演。「慢性疲労、切迫流産の比率が高い過酷な実態を紹介し、改善を訴えました。

学習会后、水戸駅南口で大幅増員を求める宣伝・署名行動を行いました。

（記事は5月17日の読売新聞・NHK水戸放送局のHPに掲載されています。）

集会には、県医師会、県看護協会からメッセージが寄せられました。

岩手170人

岩手日報

盛岡タイムス

看護師増やせとデモ行進 ナースウエーブ

2010年県ナースウエーブ集会（県医労連の主催）は15日、盛岡市内で開かれた。県内の看護師ら170人が参加した。「看護師を増やせ」「病院を守れ」などとシュプレヒコールを上げながら、同市内丸の県公会堂から大通、菜園を白衣姿で行進した。

看護師増員へ力結集

盛岡で会 労働環境改善を訴え



看護職員の増員と労働環境の改善を訴え、デモ行進する参加者

岩手医労連（佐々木茂喜委員長）は15日、盛岡市内丸の県公会堂で2010年県ナースウエーブ集会を開いた。看護師ら医療に携

わる職員の増員と労働環境の改善を訴えた。県内の看護師ら170人が参加。中野るみ子看護対策委員長は「人手不足の中で、へとへたになりながら働きづくめになっていく。参加者の思いを一つに看護師の増員を訴えていこう」とあいさつした。

日本医労連の田中千恵子中央執行委員長が「地域医療を守れ」とシュプレヒコールを上げ、白衣をきた参加者は「看護職員の待遇改善」を訴えた。

田中氏は「先月の時間外労働時間は41時間。日勤で午後11時に仕事が終わることもある。『人手を増やせ』は本当に切実な思いだ」と人手不足の深刻さを強調した。



シュプレヒコールを上げ、大通を行進する看護師ら

策委員長があいさと基調報告。田中千恵子日本医労連中央執行委員長が「看護現場の現状と課題、そして未来について」と題して記念講演をした。

医労連が昨年11月から今年1月にかけて実施した看護職員の労働実態調査（回収率36%、1260通）によると、仕事量の変化について68%が大幅に、または若干「増えた」と回答。超過勤務に関しては日勤で終業後1時間以上が46%、準夜勤で19%、深夜勤で21%となっている。

業務上のミス・ニアミスを回答者の87%が経験し、医療・看護事故の原因は「慢性的な人手不足による医療現場の忙しさ」が圧倒的に多いという。多くの看護師が健康不安を覚え、疲れが回復せず、「十分な看護ができていないか」は半数が肯定的に見ている。8割が仕事を辞めたいと思ったことがあるようだった。

医労連では「看護の業務が忙しくなる一方、若い方も出産などで職場を離れるとなかなか戻ってこない実態がある。本来の看護業務よりも記録や会議が膨大になり、それが看護師が現場から離れる原因になっている」と指摘する。

同日は公会堂で医労連の中野るみ子看護対

広島・愛知・東京のニュースは、実物を添付致します。